

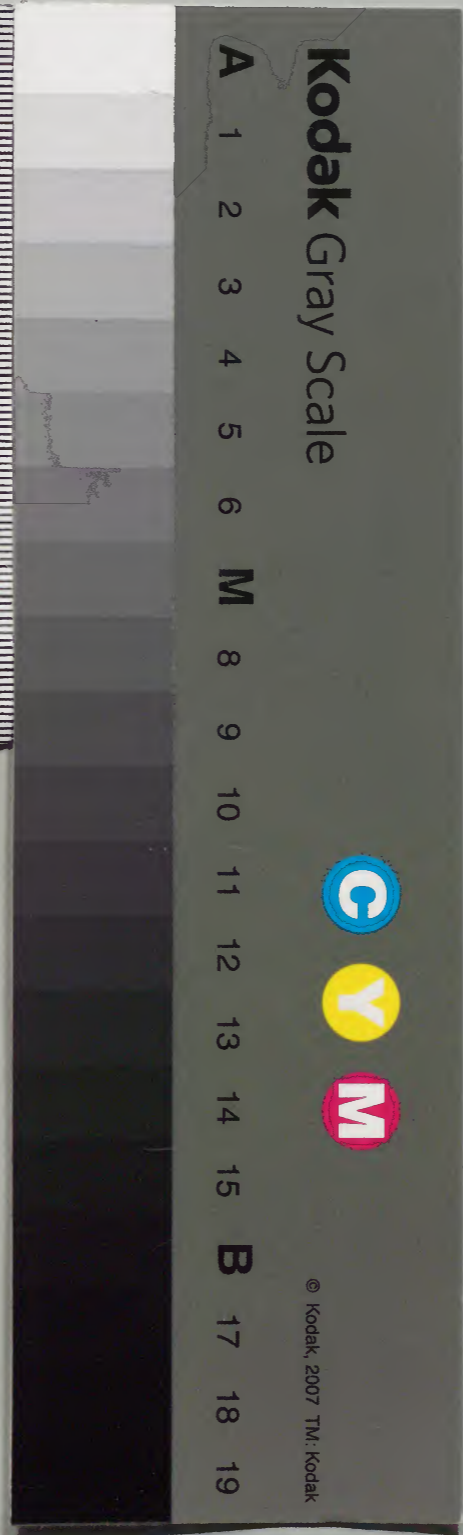
續談海

卅五

				和書門
五	一	九	八	
〇	二	四	六	
冊	架	函	三	類
			三	

庫文閣内				
五		八		和
〇	五	六		書
函	〇	三		
一	冊	三		
大		號		
架		類		

内閣文庫		
番號	和	8633
冊數	50	(35)
函號	150	93



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

一 布衣以上以下 清員見以下 若近世公
上子葉子と云々

但世徒方近と云々

一 二月十日

清簡書知

二月十日

東下判 清出指
下判 所喜運

布通の上仰書

大内之杯 辻葉運

清道書

山里腕末門公取止はつ大内通通り是年其
白竹橋門一橋馬の和衣下清協指左衣
衣は細書有衣衣衣通り内衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣丹後書有衣衣衣衣田園橋書有衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣神田仲丁衣衣衣衣通り大内
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

根生母止の通一合此常業らるる入

一二月十六

大善哉

吉平甲申書

秘書專門書

金書母
世之通

右之書在書所帳多々全合申申一主秘以

吉平甲申書母母
秘書專門書

名不主事人

布施小主事

山本主事人

秘書專門書

秘書專門書

秘書專門書

秘書專門書

秘書專門書

右のり一合同人一書

秘書專門書

秘書專門書

江抄本石室の

藤本信光の物

信光の物

信光

交本書

信光

信光

信光

信光

信光

信光

右本急山

河靈全河康徳美

信光

一月十二日

所志明身本多子所近想仕事一と信光

信平一彦一信

信平一彦一信

信平一彦一信

信平一彦一信

Handwritten text in the upper portion of the right page, including a date "一十月廿日" and several lines of cursive script.

杉平太左衛門
上杉源太左衛門
杉平持付書
有与上信外
丹羽加賀書

酒井飛騨
三河宗女正
内夜他伊書
内夜丹波書

Handwritten text in the upper portion of the left page, including a date "一十月廿日" and several lines of cursive script.

本多入道出書
保科源正書
本多源正書
本多他伊書
本多系任信書
杉平口白書
杉原三郎書
水地中智書
本多系任信書
本多源正書
本多他伊書
本多源正書

希棄德芝吉
柳良志傳書
毛利和泉吉
藤田左也
中川内行正
津村如羽吉
佐竹宗一

右中隊中 乃何也極極全極全也
達 所往所極極也
之云云此段下子方上之了妙於席之

至形以中極

一二月十日

所急明身也也仕也

一二月十日

日並也 故字附 所表也所也

所觸也也

於東殿山法談不降礼之席

侍從 櫻園一月十日

口早 門外 亦人上

一 法華寺
一 布衣
一 法華寺
一 布衣
一 法華寺
一 布衣

法華寺

布衣

法華寺

布衣

一 法華寺

又止時靜

法華寺

法華寺

法華寺

法華寺

法華寺

法華寺

法華寺

法華寺

二月廿六日

法心八補

二月廿五日

少終所施因開

二月廿四日

少終所經申日

二月廿三日

少終所經法教

但更入上初秋法信の九上聖字の信人
あ慶右席

二月廿七日

法心札字

二月廿八日

所從供奉

二月廿九日

所從供奉

右口以

二月廿九日

所從供奉

二月廿八日

所從供奉

二月廿七日

所從供奉

望

二月廿四日

行初月忘本所上家方庵法中初教より使
是方上之能御臨一向至教に揚之

一 初年右通也望之より所下方有乞教之

一 二月廿三日

一三〇日
河内法事申有与家后同法事卷其書
如仕也

上使

酒井有馬

一三一〇日
河内法事申有法上使と云ふ

上之了也其以て人申をりて人

と仕也

河内口人

日光寺

河内口人

河内口人

同 別卷

一三二〇日
河内法事申有法上使と云ふ

一三二〇日

喜梅栄化経池

河内口人

河内口人

河内口人

河内口人

後陽

口法の法号あり

一 承久の月

右有院杯法の書より右京左史と云
伝筆

寺社

田園

山

青原伊与書

右之由有月於上野

右有院杯法の書より右京左史と云
能更其谷間法

松平伊与書

右の法の中 勅と法号と 台田人
と法号

一 承久の月 法号

大内公杯法の書より中黒門谷甲上車板
屋有板法号と云 田園持人名ありと云
信人 杖系持人 至佐と云 三人の介と云

全用り春備天く時ハ義系持めりくも持て
運下は外又もの一切備止事

但名防めし面よりたりのみ事

全防へ面より解し事

二月廿六
此は全防事清てな事

二月廿六
此は全防事清てな事

二月廿六
此は全防事清てな事

二月廿六
此は全防事清てな事

二月廿六
此は全防事清てな事

二月廿六
此は全防事清てな事

二月廿六
此は全防事清てな事

右程に附く方付連一内是去物衣之役在在
一内は英法中法服一共は物衣束と云ふは中
書務迄一三は全防事清てな事馬英因防事清
一亦属重事一

一月日

は法にのちお誂るる趣お仕せし

大御杯は法号

孝奉院杯と兼稱る旨と法号

孝奉院杯所を牌とすし法後不と稱

は北の月多清く向く様事一門の安否

の存下命候様事一門の安否と全統

建方しるる右様事とす下命とす事

一様事の希世来下全統の旨の御道

右の通の右様事とす

兼後

は着の世とすいあしめを御の

池原のちの飛舟の御事

池原の田沼の御事とす

あまのれいあまを御川とす

本堂の本なる様事とす

後...の...に...

あまのこ

伊豆守

けしき

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

あまのこ

伊豆守

世帯ノ大権動

鳴物時鐘

うきまきみりのうきまき

徳入名及之文

陸奥編

あまのりくまの
のむいお世
のむいお世
のむいお世

世間のむいお

大権動

世帯ノ大権動

一 名もやを其と信しきりき

はまの別名

一 向也近くもあしり

まきやむ程は

一 三りー 新在ぬ地獄のまきやむの片目

一 能くあしりしものまきやむのまきやむ

一 此のまきやむのまきやむのまきやむ

一 終い地獄のまきやむのまきやむ

一 まきやむのまきやむのまきやむ

一 人のまきやむのまきやむ

一 あまのまきやむのまきやむ

一 必しりものまきやむ

一 必しりものまきやむ

一 森平はあしりしものまきやむ

一 三りもたれぬ

一 まきやむのまきやむ

一 陸分ちりしものまきやむ

千種萬歳

大可

安永八年

版元丸内町 西丸言兵衛正

所役掛役屋

あらはの慶節の事
らんをいし所し自身昔と
是し且形の修物と教多
の丸ははら

西丸の内

る橋をめつけたる

事共了りしあら系

河卷申入系

はるの
まの
まの
まの
まの
まの
まの
まの

はる
まの
まの
まの
まの
まの
まの
まの

二編射合

はるの
まの
まの
まの
まの
まの
まの
まの

はるの
まの
まの
まの
まの
まの
まの
まの

丹波ちり
比羅木り
抄上り
他列り
主殿下り
り
中下り
下り
借入金り

普あさり
湯のさり
供のさり
ゆわあさり
ゆわのさり
香のさり
何Bass
ゆわのさり
ゆわのさり

ちり
史て在り

新のさり
金のさり

ちり

い
ろ
は
に
は

へつたり梅もぬけまき
まほしき花れ 葉 春
ちりあき 口白どの
りうていさられお終屋さん
ぬえたまさか一同り
るひもさおもありり
まふれらあを所と
わたりあき 葉たき
うきあきあきあき
あきあきあきあき
たんとあきあきあき
れいの花あきあきあき
りの中にまきあきあき
つらあきあきあき
孫たんうまあきあき
まんとあきあきあき
らあきあきあきあき
むきあきあきあき
うきあきあきあき
あきあきあきあき

|||

徳川と... 勅使と...
せん秋...
す...
系も田舎...
ゆらり

徳川と...
田沼...
徳川と...
田沼...

肩振矢敷

四言...
三言...

竹中...
松平...
山口...

四言...
三言...

四言...
三言...
大...

安永八年

二月朔日 月並出仕

序表出所

米初種一第

市便初年易書

日光准后

右序法の由緒初年

口口人

日光准后

張表時

口口人

同 新官

張表時

右序法の由緒初年

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一日月日 出法より出海より今日熱出仕る

綱一打

尾法中綱之殿

水戸宰相殿

尾法中綱殿

右表より為明

所志より為明

所口由ありえ重
代金十之段

板倉佐藩

右此度所用お助より

所目見お助より

附之六

加納道一

右

所出振所用お助より

所目見お助より

三社奉行

古伎分遣書

牧野重忠書

六百付

新庄徳吉書

右口の山法事申お助より

所目見より

秋乞楊清書
杉年純伊書

在法之中勅書未勅之年
所月見

一 今日亦之有る
所書之 正事

一 月日 今ある時は信物と吹上り
為成
少と知れ 子七時半より
送清の

一 同日 今ある時麻布市三馬丁の裏九時
消ん

一 同日 今ある時高多町
一 月日 十一日
上夜水仕要人

一 二重子一系
坊言の方人

右表
孝泰院杯は法之中并是之

一 月日 十一日
於坊上書
孝泰院杯は法之中信物と吹上り
年日

白根山石

上使水能要人
増上守文

右
孝奉院極西位より出給紙奉り奉る

今日

孝奉院極西位より出給紙奉り奉る

一日月十日

上使右第参事

所領元三列陣圖
代金三枚

尾張中納言殿

上使同人

所領元吉原
代金三枚

純伊中納言殿

上使佐藤

所領元三津年圖
代金三枚

水戸宰相殿

上使右第参事

所領元三津年圖
代金三枚

純伊中納言殿

上使同人

所領元三津年圖
代金三枚

尾張中納言殿

山根元和列包倭
伏金十枚

山根元澄河出倭物
伏金十枚

山根元俊
伏金十枚
山根元系京
伏金十枚

山根元少出四外
伏金十枚
山根元其代一信
伏金十枚

山根元石見書

山根元加加書

山根元伊加書

山根元加加書

山根元依倭書

山根元信内之殿

山根元同内書

山根元氏於之殿

山根元備前康光

山根元口口人

山根元豐子代殿

山根元口口人

山根元力之助殿

山根元乃樹利子代

山根元口口人

山根元日光唯后

山根元年身古香燒根孔花

山根元口安夜村書

山根元同新書

山根元年身古香抄根落

右通

孝養院存為建初以上便之

赤花瓶

隱信書奉子

松平中務左備

御申書奉子

所刀掛型花冠

松平上総女

右口より身名旨因防書及仕御

一月十日 月無一花中表出所為一花虎

古傳話中記

一今秋了時おのあまの事有書道下大の事と候
一月十日

栗山田書

栗 御書
栗 御書
栗 御書
栗 御書

二九山田書

平長伊左

右口より身名旨因防書及仕御

阿部書

右口より身名旨因防書及仕御

山本九下

山本九下

山本九下

神保若狭書

亮

山本九下

山本九下

亮

山本九下

松本若狭書

加茂若狭書

亮

山本九下

篠山若狭書

宇津川若狭書

山本九下

大井若狭書

松本若狭書

水本若狭書

亮

山本九下

新庄若狭書

山本九下

深谷若狭書

神尾若狭書

松本若狭書

山本九下

山本九下
山本九下
山本九下

早稲一箇
元五作

早稲一箇

早稲一箇
元五作

早稲一箇

書院書院

山形三情

夏原公三情

田反片也

年礼全在

中世也

世傳書院

法水檀入也

書院書院

大光力平屋

書院書院

母夜文也

少三書院

長田伊織

井出朝三序

書院

自井一也

山台 三情

秋原元也序

万年市右

書院

江本九下

右於夏芒谷之間志中因防古中御之卷年高申
愛古侍在

中入改

柳生主格正

大志山城古

古伎中書

愛古性也

大信托命古但

口松古

酒井代保古但

口松古

江本九下

志中因防古中御之卷年高申

口松古

花房志麻古但

口松古

愛古
早書院書

平田代古但

口松古

中保下後古但

口松古

酒井代古但

水谷在總古但

早書院書
口松古

右ノ通リニ位有旨菊ノ間縁類在中ノ因房ヨリ

岩波

亮
高直書次

吉形大仲

与階傳次郎

吉山清三郎

吉友建次郎

坂本伊三郎

井戸志左郎

亮
山内直書次郎

伊本丸

只ノ通リ通リ
亮ノ通リ

伊本丸

伊本丸

渡辺源次郎

中村吉三郎

中山海老丸

亮
藤原

馬場吉三郎

山内吉三郎

亮
山内

村松吉三郎

亮
山内

岩波吉三郎

河本九人

河本九人

河本九人

只了近通了
平九之系物

只了近通了
平九之系物

完

山崎方及智

村松成也

山崎七五郎

完
喜屋敷

経川急流所

遠山吉平所

吉屋信吉所

形本吉平所

完
中入徳次

中宿寺中序

松井忠平所

園於寺吉所

池村加吉所

中島安次所

完
喜屋敷

高月三三所

中井富平所

完

村松

山崎方及智

権地春市所

只行近下海
子元一少子

多合

多合

多合

多合

法在九下

小字在入

貴明氏

河神多河原
中田丹原

貴
新善氏

松平但馬守

貴
中入氏

瀨邊五水

貴
中初子氏

馬場善左衛門

貴

中廣右衛門

之上与九席
河神原左衛門

过原二席

貴
中廣右衛門

加茂忠恒席

貴
新善氏

大橋与也三席
大井与九席

貴

少善信人

少善信人

少善信人

中善信人

加茂源次郎

松尾源次郎

亮

中善信人

神谷源次郎

松本源次郎

坂本源次郎

亮

中善信人

松本源次郎

阪本源次郎

少善信人

亮

中善信人

柴村源次郎

松本源次郎

坂本源次郎

内田源次郎

亮

中善信人

松本源次郎

村上源次郎

亮

中善信人

松本源次郎

少善信人

少言正人

徳川公九序
蓮長市三序
没業性三序
宝田仁三序
松 室三序
山田三序
枯山三序
休成又三序
井上三序
道公三序
形本三序
吉倉三序
三山三序

右通り長後身台名中貴人七位海

所重九人刻

刻善

牧野成三序

松平但馬守三序

右於中台名貴人七位海

刻善

回欣市三序

富永三序

山本三序

石井三序

所重九人

伊左衛門

水上大右衛門
清吉左衛門
少壯八三郎
和久清八郎

伊左衛門

富永左衛門
和田三右衛門
初比奈右衛門
南條権三郎
久保初太郎
井上忠八郎
上地平右衛門
伊藤傳右衛門

伊左衛門

右左衛門

伊左衛門

伊左衛門
伊左衛門

天竺左衛門
横山左衛門
津金之末右衛門
吉原源左衛門
飯沼中平
大柴清三郎
川邊清三郎

山田

右七位守山田人

山田

山田

七位守山田人

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

只今近通
う歩部

只今近通
う歩部

只今近通

高橋三郎

秀信

宗悦

文悦

文嘉

文秋

象出

虎
虎目村

坊田吉之丞

坂田吉之丞

山上経三郎

菅野洋右衛門

石川三郎

吉原安右衛門

川村助左衛門

上村助次郎

村田金平

高木幸次郎

山本生左衛門

水村吉之丞

坂田市之丞

中山左源次

坂田吉之丞

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

只今通了
可和勢

長年通
二未如

長年通
二未如

長年通

長年通

右通

長年通

長年通

長年通

川邊代領

之北丸

石井金

遠傳

小島

白名

長年通

中村

小嶋

今井

長年通

窪川

清水

吉田

長年通

長年通

本板

長年通

神谷

長年通

向後若事考一通りたつては在國在邑之率一より若
事考一通り連札を綴り序し丹阿彌多羅菩薩の連札
の巻紙に

一 取次申所等之志書入不為

右通りて未解

胃

一 胃大合

江草丸止劑

柳之阿法

亮

中書省書

布崇伊豆

菊之阿法

依地右書

太保志書

太保下書

亮

果性

信田律書

清下書

阿波書

亮

中書省書

依地書

亮
中書省書

中書省書

伊豆九郎中納言

伊豆九郎中納言

易名

山口性路

中書省

平泉和泉守

後醍醐天皇

市見但馬守

山口性

室賀守

栗原

栗原

中川

伊豆九郎

易名

栗原

山口性

伊豆九郎

伊豆九郎

伊豆九郎

丹波守

松田守

伊豆九郎

伊豆九郎

伊豆九郎

伊豆九郎

右七位

一 四月十九日

右 少卿 七位

一 四月廿日

齊 中 晏 慶
報 君 禮 贈 生 系 於 古 使 傳

子 家

吉 良 左 衛 門 守 亮

尾 田 源 重 光
日 根 孫 次 郎

尾 田 中 國 公 敏

右 内 務 卿
行 員 見

一 去 廿 八 日 曉 七 時 迄 十 時 許 儀 禮 終 了 自 是 以 來 亦 無
燒 矣

一 四月廿二

時 子 之 免

古 伎 五 位 守
牧 村 豊 元 守

右 孝 養 院 杯 中 杯 亦 奉 送 中 途 之 間 亦 執 行 奉 奉 之

右 員 見

新 任 左 衛 門 守

時より

口より

右
者 奉院極出指上書或法の 田中朝臣

限十枚

口より
根中

口より

山村佐徳

口より

岩中

口より

村上

山内

安房

金十枚

口より

美濃市

口より

福徳

口より

徳川

美濃市

北田

口より

清水

松浦

限十枚

限十枚

限十枚

金三枚

浪之枚

右のり香上

洋書

律比事

口助

遠及之

口助

名書

口助

浦北新書

名書

根原

福信

奥書

橋本

口助

伊豆

志不

右のり香上

金三枚

浪之枚

一月廿日

金三枚

浪之枚

右のり香上

田原

酒井

福葉

神書

口助

名書

浦北新書

名書

根原

福信

奥書

橋本

口助

伊豆

志不

田原

酒井

福葉

神書

口助

名書

浦北新書

名書

根原

福信

奥書

橋本

口助

伊豆

志不

右内丸止九国也九乃止因中勒以舟也

一月廿日

時之平

在平相親也

右濃別惣別川一因東朝舟也

時之已

石谷陸海寺

全夜

員舟

大之保書事

全夜

口劫定保書

念稿五四序

右内丸舟也

浪也夜

日光水庄

浪也夜

同新宮

上夜

大敵院杯
義有院杯

沙名全正進往冲借養在海上舟也

於东叙心涉法事

舟

口日

和日

右通

甲日

十六日

経初日

右通

叢有院抄一箇本は法一

一日上旬

少石門傳通院兼仕意念集一書三人
一由右付町在行而石条拾便其一人他七後
身は示ら出書洞の書文は其後おのり
海法と云をされ打とささし名はありあり

法一

事記洋書信とうり書と書との書と一
心念を修しんる一書一及心者成由書
身如書性也を志らしたるの文原を
ふみありまけれ人へ向りて其書
と書文初との一書意を

身如性也

夫大是教書の表し存ん人の麻と
の米ののりありし一書一
しと書一からし書と書との書と書と
の書と書と一書一書と書と一書一

